

第56回岩手県水産審議会 会議録

日時 平成30年8月2日(木) 13:30~15:30

場所 岩手県水産会館 5階大会議室

挨拶

上田
農林水産部長

はじめに、この度の西日本豪雨で犠牲になられた方に対し、心からお悔やみ申し上げますとともに、被害に遭われた全ての皆様にお見舞い申し上げます。

委員の皆様方におかれましては、日頃から本県の水産振興に格別の御理解、御協力を賜り、厚く御礼を申し上げますとともに、この度は、ご多忙のところ委員就任を快くお引き受けいただき深く感謝を申し上げます。

さて、東日本大震災津波の発災から、7年余りが経過しました。

県では、復興計画に基づき「漁業協同組合を核とした漁業、養殖業の構築」、「産地魚市場を核とした流通・加工体制の構築」、「漁港等の整備」の3本の柱を掲げ、多くの方々の御支援をいただきながら、関係団体や国、市町村とともに一丸となって、復旧・復興に取り組んできた結果、漁船や養殖施設、荷捌き施設などの整備は、ほぼ終了したところです。

一方で、秋サケ等の主要魚種の不漁や、漁業就業者の減少など、本県の水産業は多くの課題を抱えております。これらの課題を解決するため、秋サケの資源回復や養殖漁場の生産効率向上等に取り組むほか、次世代の担い手確保・育成の強化を図るため、来年度から「(仮称) いわて水産アカデミー」を開講するなど、水産業の復興と活力ある漁村の再生に向けた取組を進めているところです。

県では、復興の先を見据え、岩手の未来のあるべき姿を実現するための次期総合計画の策定作業を昨年度からスタートしております。次期総合計画は「幸福」をキーワードとし、県民一人ひとりが互いに支え合いながら、幸福を追求していくことができる地域社会の実現を目指し、幸福を守り育てるための取組を進めていくこととしています。本日は、計画の素案や水産業に係る施策の方向性などを御説明しまして、御意見等を頂戴したいと考えております。

また、併せて「岩手県水産基盤整備方針の改定」などについても御報告させていただきますので、皆様からの忌憚のない御意見、御提言をいただきますようお願い申し上げます。開会にあたっての御挨拶とさせていただきます。

本日はよろしく願いいたします。

議事 会長及び副会長の選出について

上田
農林水産部長

会長が決まるまでの間、大変僭越ではございますけれども、仮の議長を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは、会長の選出の件でございますが、会長の選出について、立候補または推薦がございましたら、お願いいたします。

佐藤 由也
委員

大井委員にお願いしたいのですが、いかがでしょうか。

上田
農林水産部長

只今、会長に大井委員を、という意見がございましたけれども、皆様いかがでしょうか。

委員一同

異議なし。

上田

ありがとうございます。

農林水産部長	異議がないようですので、会長は大井委員に決定いたします。 それでは、会長の選出が終わりましたので、これで仮の議長を終わらせて頂きます。 では大井会長、この後はよろしくお願ひします。
大井 誠治 委員 (会長)	岩手県漁業協同組合連合会の大井でございます。 前期に引き続き、会長の任にあたらせていただきますので、よろしくお願ひします。 本日は、県の次期総合計画に係る検討があるようですので、今後の施策や事業を適切に進めていただくため、委員の皆様には、質問や意見、提言など活発にご発言いただきますよう、よろしくお願ひします。 それでは、副会長の選任につきまして、立候補または推薦がございましたら、ご発言を頂きたいと思ひます。
佐藤 由也 委員	大井会長に一任したいのですが、いかがでしょうか。
大井 誠治 委員 (会長)	それでは、私から指名させていただきます。 副会長には、前期に続きまして、漁協女性部連絡協議会の会長でございます、盛合委員にお願ひいたします。
盛合 敏子 委員 (副会長)	よろしくお願ひいたします。

議事 次期総合計画の策定について

大井 誠治 委員 (会長)	それでは、議事に入らせていただきます。 次期総合計画の策定について、事務局から説明をお願いします。
本多 政策推進室特 命会長	(資料1-1、1-2を説明)
伊藤 水産担当技監	(資料2を説明)
阿部 総括課長	(資料2を説明)
大井 誠治 委員 (会長)	ただ今の説明について、ご意見やご提言などがございましたらご発言をお願いします。
五日市 知香 委員	六次産業化などの取組について書かれていますが、漁業者による六次産業化の取組は難しく、ほとんどが農業で、水産はまだまだという状況です。目指す姿や対応の方向性で綾里漁協さんの取組などを書かれていますが、私が関わった取組を紹介します。青森県の若手漁業者の取組なのですが、都内を中心とした飲食店が活魚を直接買い取りたいという話があり、よりモチベーションを上げていただくために、役場に予算をつけていただいて、実際に自分たちがだす活魚がどう消費者に届くのかを見てもらいました。活魚で釣り体験のようなこともできる店で、オーナーさんにも色々な質問にも答えてもらい、活魚を出した場合どうなるのかというイメージを掴むことができたので、参加者はすごくモチベーションが上がりました。冬場だけということだったのですが、今年の夏から取り組みたいということで、役場にも活魚水槽の冷却装置の導入などで動いても

	<p>らいました。活魚は手間がかかりますが、SNS や加工による取り組みだけでなく、そのようなことも一つあるのではないかと思います、紹介させていただきました。</p>
菅原 和彦 委員	<p>水産アカデミーが開設されますが、講師はどのような方を想定されていますか。また、岩手大学の水産コースとの連携は想定されていますか。</p>
森山 漁業調整課長	<p>水産アカデミーにつきましては、協議会が運営する形を考慮しており、構成員は漁業関係団体・市町村・県となります。岩手大学の水産システムコースや北里大学については、教育機関として支援いただくことを想定しています。講師につきましては今後詰めていきたいと思いますが、座学講習のカリキュラムの中でご協力頂く予定です。</p>
菅原 悦子 委員	<p>岩手大学にも水産コースができて県とどう協力していくかが課題となっていますので、ぜひアカデミーを機会に連携を深めていきたいと考えています。それからアグリフロンティアスクールは県・大学・農協が連携した学びを通して地域に貢献できる取り組みとして全国的にも評価が高い取り組みですので、ぜひそのような取り組みを目指していただきたいとおもいます。また、スクールの中で新たにプログラムを増やしたことによって多様型の学びの場になっています。女性の方の六次産業化など、このようなところで学んだことによって次に進んでいけるという気がします。中身についても多様な方が漁業に参画できるような学びの場にしていただきたいと思います。どうすれば多様な方の参画が得られるのかがまだ見えませんので、アグリフロンティアスクールを参考に検討いただければと思います。</p>
伊藤 水産担当技監	<p>アカデミーについてですが、ぜひ岩手大学と連携して進めていきたいと考えております。具体的には座学研修の講師をお願いしたいということと、学生との交流についても設けていきたいと考えております。学生が卒業した後もアカデミーを活用していただければと思います。多様な方の参画という点ですが、アカデミーは若い方中心に10名位から始めていきたいと思っておりますが、今後多様な人材育成も考えていければと思います。</p>
柁屋 伸夫 委員	<p>担い手の確保ですが、空き漁場の活用による規模拡大や漁協自営、協業化に取り組むということでありがたいと思っております。現場では急激に漁業者の減少が進んでおり、これまでのスピードではなく、より加速度的に強力に取り組むを進めていただきたいと思っております。これまでにない取り組みや、漁業者の高齢化や減少に対して緊急的な取り組みなどありましたらお考えをお聞かせいただければと思います。</p>
工藤 振興担当課長	<p>漁業者の高齢化や減少対策として、昨年からは新たな漁村活力創出支援事業を行っておりまして、まず有識者の方にどのような振興策を行っていくべきか検討いただき提言をいただいたところです。今後、その提言に基づき、規模拡大や空き漁場を活用した自営養殖、異業種連携による養殖などに取り組んでいきたいと考えています。</p>
柁屋 伸夫 委員	<p>漁業者の減少が加速度的に進んでいく中で、生産を維持拡大していく必要がありますので、支援なり制度を作りながら進めていけばなお早く目指す姿の達成が叶うのではないかと思いますので、よろしく願いいたします。</p>
森山 漁業調整課長	<p>これまでにない取り組みということですが、水産アカデミーでは様々なカリキュラムを検討しております。漁業に携わる技術・資格の他、漁業経営や情報技術、水産法令、漁業制度などについても盛り込んでおり、地域の漁業者として溶け込んで、リーダーとなる人材を育成していきたいと考えています。</p>
盛合 敏子 委員	<p>私達が若い頃は普及員さんたちの接点が多く、勉強させて貰う機会が多かったのですが、今はそのような機会が少なくなっていると感じています。水産アカデミーは10名程度ということですが、10名程度ではだめだと思えます。やりたい人は1日でもいいから</p>

伊藤 水産担当技監	<p>来なさい、というくらいでない。10名程度では何ができるかと思います。育っていく人がいけばよいですが、一人二人では引っ張っていけない時代だと思います。地域の青年部みんないらっしやい、くらいでない。漁協の役員さんたちにも勉強する機会が無いようですので、そういう方々にもアカデミーで底上げをしていきたいと説明する必要があります。地域を上げてやっていかないと行けないと思いますので、検討していただければと思います。</p>
遠藤 譲一 委員	<p>ご提言として承ります。水産アカデミーは新規就業者に対する機関ですので、漁業に就業する前に基礎的な知識がないと、いきなり現地に入ればやめていく方も多いため、新規就業者の勉強の機会ということで考えています。人数については、どのくらいの応募があるかわかりませんので、10名としておりますが、2年目以降は人数を増やすことについても考えていきたいです。それ以外の、現地に入って就業している人、中核となっている人、漁協の役員さん、女性部の方々等、昔は勉強する機会があったと感じておりますので、そういう方々の勉強・研修の機会も確保していきたいです。</p>
藤原 真帆 委員	<p>漁業が厳しい状況なのですが、この状況を変えるのは人材、リーダーだと思います。資料にあったICT技術や五日市さんから紹介あった直接売っていく手法など、これからは獲ることだけでなく、どう所得を確保していくかが必要になると思います。子どもを大学に行かせられるくらいの所得がないといけません。若い人がやろうと思っても、上の理解によってやれないところもあります。若い人の勉強に加え、上の人の意識が大切だと思います。急いでやらないと従業者が減っていくという状況で変わるに変われなくなると思います。意識を変える話は地元で話すと失礼な話になってしまうので、県にやっていただければと思います。変わろうとする人が現れれば、変わっていくところもあると思います。自分たちの息子がやらないのであれば入りやすくして他所の人を受け入れなければならない。うちの集落は昔からこうだから、という発想は根強い。変わるころは変えていかなければいけない。そのためにも人材育成に取り組んでいただきたいです。</p>
五日市 知香 委員	<p>買う側からの意見をお話します。漁業者と消費者の交流ネットワークの構築ということですが、全て点だと思います。点のつながりというか、岩手県には良い水産物があると思うのですが、売っていない。少なくとも岩手のスーパーで岩手のものを買おうと思っても難しい。あることはありますが以前より少なくて輸入物が増えている。五日市さんの取り組みにもありましたが、いいものがあるのであれば県が営業マンとなって消費者側に発信していく必要があると思います。消費者は発信されないと知らないままなので頑張って欲しいです。</p> <p>また、総合計画の中にSDGsの提案があり、海の豊かさを守ろうという項目があります。MSCという漁業の環境を守りながら獲った魚の加工品につくマークがありますが、岩手の商品でそういう環境に配慮した商品があれば意識高い層というか、これからの層に付加価値として魅力的なので、六次産業以外にも、環境への配慮の視点なども考慮していただければと思います。</p>
濱田 武士 委員	<p>漁業者さんが漁業が儲からないといっています。若い漁業者がそういうことを言うのを聞いてショックを受けました。これだとやってみたいという人が少ないと思うので、手の届く事例、あの人がやっているのなら自分でもできるかな、という事例を多く作っていくのが必要なんじゃないかなと思います。</p>
濱田 武士 委員	<p>岩手県の水産業全体を見たときに、流通加工業が広い海岸線沿いに分散しています。震災後に加工施設等を若干集約したりもしていますが、長期的に見たときに分散しているのが良いかどうか。それで良いという結論もあると思います。長期的に見たときに流通などの機能が集約していないと県全体としてみたときに生産性が上がらないし、ブロックごとの役割分担も長期的なビジョンの中では考えていく必要があると思います。それぞれの自治体の考えがあって難しい部分もあると思いますが、考えていく必要がある</p>

のではないかという問題提起です。これからはトラックの運転手など物流の担い手も減っていきますので、物流面でも集約が必要になってきます。県の水産当局として、生産性を上げるという考えが必要なのではないかというのが一つです。

もう一つが、水産の場合、獲れる資源が変動していきます。このリスクを捉えていく必要があると思います。高付加価値を挙げておりますが、とれたり獲れなかったりという中で加工を柔軟にやっていく必要がある。県としてもその後押しが必要ではないかという意見です。

報告 岩手県水産基盤整備方針の改定について

大井 誠治
委員（会長）

それではこのへんで次に移らせていただきます。
話題提供の二つ目として、岩手県水産基盤整備方針の改定について、事務局から説明をお願いします。

阿部
総括課長

（資料3を説明）

大井 誠治
委員（会長）

岩手県水産基盤整備方針の改定について説明が終わりました。只今の説明につきまして、ご意見やご提言がございましたら、ご発言を頂きたいと思っております。

吹切 守
委員

漁港の有効活用も大事ですが、一般漁場についても近年あまり風が良くなく、十分な操業ができていませんので、そういった場所の静穏化についても計画に盛り込んでいただきたいと思っております。

阿部
総括課長

これから現地でご意見を伺い、そういったことについても反映させていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

工藤 昌代
委員

漁場生産力の向上についてですが、細かいウニがかなりたくさんいるけど、餌が足りなくて大きくなれないということがあります。増殖場の整備においては、餌となるものをいかに育てていくかということだと思いますので、考えていただければさらにいいと思います。

菅原 悦子
委員

漁港の整備は長期ビジョンとも重なるところだと思います。何がこれから本県の重要な漁業になるというところがベースになって、漁港の整備が行われると思うのですが、この辺の考え方と整備の考え方が一体となっているかどうか、このようなビジョンを基に整備を行っていきます、ということに関連付けて説明いただくと理解しやすいと思います。

阿部
総括課長

ご指摘のとおり、次期総合計画がベースになります。これを基本として、漁港整備等の基盤整備をどう具体的にやっていくかということを示すものが今説明した方針ですので、これから次期総合計画とリンクした形で作っていきたいと思っております。次期総合計画の水産部分の基盤整備部分をブレイクダウンしたものとご理解いただければと思います。

その他

大井 誠治
委員（会長）

その他の部分でございまして、今までの議事等に関することにつきまして、ご意見ご提言等ありましたらご発言をお願いします。

大井 誠治
委員（会長）

先日復興委員会に出席して感じたことです。今まで沿岸部の復興に貢献した実例が一つも挙げていません。実例を挙げて模範とすることで、これからの対応にも活かせると思うのですが、漠然とした方法論だけ述べていて、経過報告と一般論のみのような気がしました。総合計画にも復興の項目が入っていますが、復興に貢献した実例がたくさんあるのですから、実例を上げて次の対応に活かすべきだと思います。残念ながらただ報告事項だけという印象を受けました。一般論はごもっともなのですが、具体性が入ったほうがいいと思います。よろしくお願いします。

閉会